



US OPEN JUNIOR 2016



Tournament Report 2016 8/28~9/7



主 催：全国高等学校体育連盟 テニス専門部

報告者：三重県高体連テニス専門部 中村 健太郎



US OPEN JUNIOR 2016 **PAGE1**



参 加 者

選 手	菊池 裕太	(相生学院高校)
選 手	清水 映里	(山村学園高校)
団 長	家弓 明丈	(全国高等学校体育連盟 テニス専門部部長)
監 督	岩佐 敏郎	(全国高等学校体育連盟 テニス専門部副部長)
コーチ	中村 健太郎	(三重県高等学校体育連盟 テニス専門部常任委員)
コーディネータ	上田 篤	(アメアスポーツ)



第1日目(8/28)

・18:00～壮行会(ホテル日航成田 藤の間)

家弓部長より

今回の遠征は昨年の反省を元に1日早く出発することになりました。試合前にしっかり準備をして予選に挑んで欲しい。必ず勝ち上がって本戦で戦っていただきたい。

菊池選手より

予選の1セット目から全力を出せるように準備していきたい。

清水選手より

US オープンジュニアへ参加にあたり高体連ならびに関係者の皆様に感謝したい。
2年連続で出場するので昨年の経験を活かして一戦一戦勝ち上がっていききたい。





第2日目 (8/29)

10:50 (日本時間) JAL JL6便 成田空港出発



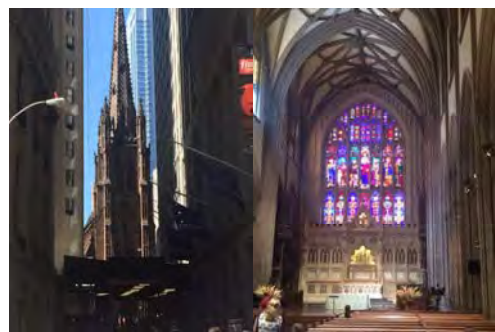
10:30 (ニューヨーク時間) ジョン・エフ・ケネディ空港到着



11:30～ 時差の調整を兼ねて



バッテリーパーク



トリニティチャーチル



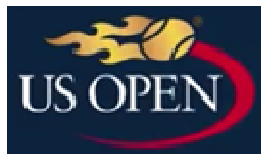
ウォールストリート



グランドゼロ

天候も快晴で散歩するには最高でした。





17:30～ ジョンマッケンローテニスアカデミーで90分充実した練習をおこなった。



到着後、
ランニングとストレッチで
汗を流す両選手。



ヒッティングパートナーの舌
(ゼツ) コーチ、クーパー選
手との練習でデコターフの感
触を確かめた。





第3日目（8／30）



ニュージャージー州営オーバーテックコートで午前・午後の2回練習をおこないました。
午前練習では、清水選手はアンドレア選手（15歳）、菊池選手はクーパー選手（18歳）
とマッチ練習をおこない、実戦感覚を養いました。



2日目の練習を終えての感想

菊池選手

午前はマッチ練習、午後は2対1のポイント形式をおこないました。今日はハードに動いたのでしっかり食事と睡眠をとり明日の練習も頑張ります。

清水選手

今日は、午前・午後2回練習して時差にも慣れて良い練習ができました。特に午前は舌（ゼツ）コーチに連れてきていただいた、アンドレア選手とマッチ練習することができ試合に向けて調整することができました。





第4日目（8／31）

練習前にホテル内のジム（24 時間営業で宿泊者は無料）でトレーニングをおこなった。



練習は昨日と同様ニュージャージー州営オーバーテックコートで午前・午後で2回練習をおこないました。

清水選手は、昨年同コートで記念撮影した地元高校のテニス部のみなさんと、この日の練習後に再会することができました。



大会に備えて会場であるフラッシング・メドウ（USTA ナショナルテニスセンター）で施設等の下見をおこなった。

選手の練習時間が電光掲示板に発表されており、錦織圭選手の練習を練習コート用のスタンドから見る事ができた。



アーサーアッシュスタジアムで女子シングルの試合観戦。日本とは違い選手と観客との一体感があり、試合中の盛り上がり方は今まで感じたことない雰囲気であった。





第5日目（9／1）



渡米してから初めての雨、午前の練習予定を変更してニュージャージー州 Binghamton テニスクラブインドアコートで90分練習し汗を流しました。



レンタカーで移動し会場であるフラッシング・メドウ（USTA ナショナルテニスセンター）に12：30に到着しエントリーの手続きをしてIDが配布され、いよいよ試合モード、雨天のため会場練習を一度は諦めましたが、祈りが通じて天候が回復し17：15から45分間と短い時間ではありましたが、他国の出場選手と練習することができました。

予選に向けて一言

菊池選手

明日はいよいよ予選1回戦です。私は本戦に出場して優勝するつもりでいるので、そのためにも初戦、自分のテニスをしっかりと相手に圧倒して勝利したいです。

応援宜しくお願いします。

清水選手

今日は試合会場で会場の雰囲気を感じながら練習することができました。明日は予選第4シードの選手（LLでUSAの選手に変更）と対戦するので、昨年の反省を活かして出だしから自分のプレーができるように頑張ります。応援宜しくお願いします。





第6日目 (9/2)

予選1回戦

清水映里 5-7 6-3 3-6 Kariann PIERRE-LOUIS (USA)



1セット

ラリー戦では互角の戦い、相手の高速サーブに苦しむも粘り強くラリーし接戦に持ち込むが要所でミスが出てこのセットを落とす。



2セット

2-0スタートも相手のショットが決まり出し2-2。3-2 0-30 のピンチから追いつき。粘り強いラリーとチャンスでのネットプレーで、数回のデュースの末にこのゲームをとる。



ファイナルセット

スタートはよく2-1とリードするが第4ゲームのアドバンテージをものにできず2-5となる。我慢強くラリーをするが3時間を超えるロングマッチを落とした。

対戦相手の高速サーブとバックのダウンザラインに苦しむが、集中力を切らすことなく粘り強くラリーをして隙があればネットに出てポイントをとることができた。1セット・ファイナルセットのターニングポイントでアプローチショットにミスがでてしまい、接戦をものにすることができなかった。

菊池裕太 6-3 6-1 Seppe CUYPERS (BEL)

1セット

第6ゲーム、自ら前に攻めてブレイクし4-2とする。第7ゲーム、ブレイクを許し4-3、第8ゲーム、リターンから積極的に攻めてブレイクバック、勢いによって1セットをとる。





2セット

第1ゲーム、30-40からネットにでて相手のミス进行い、いきなりブレイクをする。
第2ゲーム、1st サーブが入らずブレイクを許すが、その後は要所でサービスエースを決めてキープしてITF 68位 (Career High) に勝利した。

US OPEN 初出場ながら1ゲームから落ち着いてプレーをして攻守の切り替えがし
っかりできており試合を通して安定感があった。



第7日目 (9 / 3)

予選2回戦

菊池裕太 6-0 6-1 Lucas KOLLE (BAR) 予選7シード

1セット

第1ゲームからワイドとセンターに1st サーブを打ち分けて簡単にキープ。フォアの
ダウンザラインも次々と決まりセットを奪う。

2セット

第1ゲーム 40-30で微妙なジャッジでブレイクを許すが、第2ゲームリターンか
ら積極的に攻めてすぐにブレイクバック。第3ゲーム、3回デュースが続くがポジション
を上げ速いタイミングでラリーをして相手のバックアウトを誘ってキープする。その後も
積極的に攻めて相手に自分のプレーをさせずに圧勝した。

心技体が全て揃うと今回のような試合内容になる。対戦相手がラリーのテンポについて
行けず、完璧な試合内容であった。悲願の本選出場を決めた。





第8日目（9／4）

本選出場を決めた菊池選手は本日試合がなく、午前は試合会場で午後はプラクティスコートを使用して高体連スタッフ全員がサポートする中、練習をおこなった。



本戦への意気込み 菊池選手

明日から本選ですが、予選では自分のテニスができて調子もよいので練習でしっかり調整して試合の中で自分らしいテニスをして優勝するために、まずは1勝目を目指して頑張ります。

第9日目（9／5）



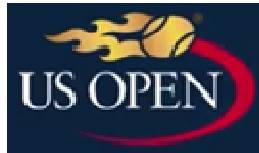
本戦1回戦

菊池裕太 6－7（3） 5－7 Patrick Kypson (USA)

1セット

- 第 1 ゲーム 高速サーブと深いラリーに押される。0－1
- 第 2 ゲーム 緊張からか動きが硬くブレイクを許す。0－2。
- 第 3 ゲーム 積極的に前に出て相手のバックアウトを誘いブレイクに成功。1－2
- 第 4 ゲーム 30－30 相手が前に出てきたところを見透かしてループで抜いて初キープ。2－2
- 第 5 ゲーム 40－0からデュースまでいくがキープを許す。2－3
- 第 6 ゲーム 2度のデュースがあったがしっかりキープ。3－3
- 第 7 ゲーム 0ゲームキープされる。3－4
- 第 8 ゲーム 1st サーブが全て入りフリーポイントをつくりキープ。4－4
- 第 9 ゲーム 0ゲームキープされる。4－5





- 第 10 ゲーム サービスエース 2 本、フォアのダウンザライン 2 本でキープ。5 - 5
- 第 11 ゲーム 1st サーブで崩されチャンスボールをしっかりと決められキープを許す。
5 - 6
- 第 12 ゲーム 1st サーブから積極的にネットに出て、気迫を全面に出してスマッシュとボレーでポイントを取りキープ 6 - 6
- タイブレーク ギア上げた相手の深いボールに押されて 3 - 7 で落とす。



2 セット

- 第 1 ゲーム サービスエース、1st サーブから攻撃的なラリーでキープ。1 - 0
- 第 2 ゲーム ストレートヘリターンエースを決め 3 0 - 3 0 に追いつくがキープを許す。
1 - 1
- 第 3 ゲーム サービスからしっかりラリーをしてオープンスペースをつくり相手のミスを誘いキープ。2 - 1
- 第 4 ゲーム フォアの逆クロス、ドロップショットが決まり 0 - 4 0 3 回のブレークチャンスをとることができずキープを許す。2 - 2
- 第 5 ゲーム ラリーミスが続き 0 - 4 0 サービスエース、1st サーブからラリーで主導権を握りピンチを切り抜ける。チーム高体連スタッフも全力の応援が続く。
3 - 2
- 第 6 ゲーム 2 度目のアドバンテージで粘り強く踏み込んでラリーをして相手のミスを誘いブレーク成功。4 - 2
- 第 7 ゲーム ラリーミスと相手のバックのダウンザラインが決まりブレークバックされる。4 - 3
- 第 8 ゲーム バックのクロスがコーナーに決まり 0 - 3 0 までいくが挽回され
4 0 - 3 0 で不運にコードボールが入りキープを許す。4 - 4
- 第 9 ゲーム 1 s t サーブからコートの中に入ってボレー等でポイントを取り最後はサービスエースでキープ。5 - 4
- 第 10 ゲーム ストロークで積極的にストレートに攻めて 3 0 - 3 0 になるがキープを許す。5 - 5





第 11 ゲーム 相手のアドバンテージを 3 回凌ぐも最後ダブルフォルトでブレイクされる。

5 - 6

第 12 ゲーム 最後までボールを追いかけて粘るもキープを許し試合終了。



接戦で緊迫した内容のある試合であった。何度か流れが菊池選手にきたが、1 チャンスをものにすることができず、本当に悔しい敗戦である。菊池選手は苦しい場面で声を出して必死にボールを追いかけてポイントを取り、応援する高体連スタッフにガッツポーズをして、選手と応援が一つになった試合であった。

第 10. 11 日目 (9 / 6. 7)



チーム高体連 帰国前に記念撮影

13 : 15 (ニューヨーク時間) JAL JL5 便 ジョン・エフ・ケネディ空港出発



16 : 25 (日本時間) 成田空港到着

17 : 30 遠征団解散





舌 隆史 コーチより

2016 US Open Junior Tennis Championships

Yuta Kikuchi

Eri Shimizu

I am honored and grateful to have been a part of the Japan High School Tennis Association US Open tour team for a 5th consecutive year. This was a unique year because we had decided to reconstruct our training schedule. It was a brand new experience for myself and the staff so we did not know what to expect but it turned out we made the right decisions. I was very pleased that the teachers were willing to be flexible in regards to making some changes. In my 5 years of experience with this responsibility as tour team advisory coach, I felt like this was the best tennis preparation the students received prior to competing at the US Open. It is a tournament that is filled with intense pressure and challenges that may be difficult to emulate in Japan. I feel like every year we are making thoughtful efforts to create the best environment for the students in preparation for the US Open and I am confident that we will continue to make progress.

Our high school girl's champion Eri Shimizu was a repeat champion from last year. It is very rare and extremely difficult to become a repeat champion. It is an extraordinary task and a proud accomplishment that deserves much praise !

Eri was very composed and mature this time because of her experience from last year. Even from the first practice after a long flight, she was moving quite well and looked focused. I was able to set Eri up to practice with one of the best players in the US girls 16 and under. Her name is Andrea Cerdan and she is from NJ. She is ranked #1 in all of NJ/NY and she became the national champion in girls 16 and under doubles a few weeks ago. Eri had the opportunity to play 2 long hard fought sets with Andrea and won both sets. It was a good warmup for a long battle she would have in the 1st round of the qualifying where she would play for close to 4 hours. Unfortunately, she was unable to win the match but she was able to give it her best effort. She was noticeably disappointed with her result but she did admit that she gave it her all and just came up short. I felt like after her 1st round loss last year, she didn't feel like it was her best effort. Although it would have been very nice for Eri to win a match, our team was proud of her tough fight. She should be very proud of herself for participating in the US Open qualifying tournament two years in a row.

The boy's high school champion Yuta Kikuchi was a very interesting individual. Every year, I am very fascinated by all the players. Yuta however has a hunger to win that felt quite different from years past. Maybe it is because he believes he is a late





bloomer and has more to prove. Or maybe because he did not have an overwhelming summer full of great results at the inter-high or the All Japan Junior Championships. Yuta had a swagger about him that clearly stood out. His demeanor was very mature and his thought process was very compassionate. After his first round win in the qualifying round, Yuta mentioned that there was no way that he could afford to lose in the first round after everything the high school tennis association had done to provide for his US Open experience. An extraordinary comment from a 16 year old boy. He proceeded to dominate his second match as well only dropping 1 game on his way to the main draw. In my 5 years of being an advisory coach, I don't think I've ever seen such a powerful performance. His opponents were both top 70 ranked juniors in the world. The main draw is a very different world however. Not only does the venue change but the intensity of the playing atmosphere is enormously different. Yuta looked noticeably nervous the first few games during his match but he turned it around very quickly. It was a nail biting 2 sets which he eventually lost 6-7 5-7 in front of a very large crowd but it was a great battle. His opponent was one of America's top juniors and he proceeded to get into the quarterfinal round. Yuta may not have played his best match that day but understandably so considering the huge stage he was standing on for the first time of his life. Nevertheless it was a very important experience for him and I am sure he will continue to grow as a player because of it. It would be a pleasure to see him back on the same stage again next year !

【遠征を振り返って】

清水映里選手

予選 1 回戦で敗退したのですが、日本では経験できない環境や試合会場の雰囲気に触れることができ、大変素晴らしい経験になりました。応援してくださった高体連の先生方、舌コーチ、アメアスポーツの皆様から感謝をしております。

帰国後も試合が続くので今回の経験を活かして頑張ります。11日間ありがとうございました。

菊池裕太選手

11日間の遠征を通して、今何をすべきかを常に考えることが出来たので、更に成長するための道しるべが見えてきました。

今回のような素晴らしい経験をさせて頂いたのは高体連の先生方、アメアスポーツの皆様、そして舌コーチのお蔭です。感謝の気持ちを忘れずに帰国してからも悔しさを忘れずに次に活かしていきます。





【遠征に参加して】

1. 遠征で意識した点

コーチとして選手と日々コミュニケーションをしっかりとることでコンディションを把握するとともに、練習メニューの時間配分等の選手からのリクエストに応えられる環境作りを常に考えました。コミュニケーションをとる方法として、その日に撮影した動画をみながらインタビューをし、反省や翌日の目標等を聞き取りました。最初は短時間で内容も軽いものでしたが、話を重ねているうちに貴重な意見交換の場になったとおもいます。

2. 試合について

両選手ともに素晴らしい試合内容で、菊池選手は予選を勝ち上がり見事本戦出場を果たしました。

- ・菊池選手・清水選手ともに勝利に対するモチベーションが高く、自分の意志でしっかり準備して試合を迎えたこと。
 - ・昨年度の反省を元に、渡米してからの調整期間を1日増やし4日間としたこと。
 - ・舌コーチに試合に向けてのスケジュール調整やヒッティングパートナーのコーディネートをしてもらい、現地で充実した練習ができたこと。
 - ・選手はプレーで、高体連スタッフは応援で気持ちを一つにして戦えたこと。
- などが要因として挙げられます。

3. 会場について




入場して感じたことは、四大大会であり規模が大きく観客数が多いのは当然ですが、観客の年齢層が幅広く会場内で常にイベントがあり、アミューズメントパークの中で大会が行われているような雰囲気がありました。また、試合観戦だけでなく選手の練習時間が電光掲示板に発表され、練習風景を練習コート用のスタンドから見ることもできたのもよかったです。

試合会場で目を引いたのは、今回試験的にジュニアの部でスコアボードの下に **SERVE CLOCK**(ポイント間の20秒をカウントダウンする時計)が表示されており、20秒ルールの徹底が図られていました。



4. 最後に

この度は、US OPEN遠征に参加するチャンスをいただき、まことにありがとうございました。

2年後に迫った「 2018 彩る感動東海総体」(テニス会場：三重県四日市市)に、今回の経験で得たものを活かし、皆様に印象付けられる大会したいと考えております。

中村 健太郎 (三重県高体連常任委員)

